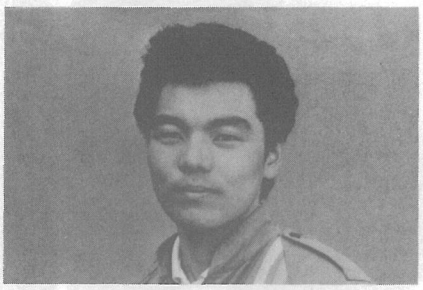
青春まっしぐら⑥

21歳



今月は、遠山の伊藤隆郎さんの登場です。家族と仕事は？

両親と祖母、私の四人家族です。私の家は農家で、田畑で一五〇aほどありますが、主にタバコ（約八〇a）をやっています。私はスタンドに勤めていますが、タバコの時期になると、家を手伝っています。

今月末に、二十二歳の誕生日を迎える伊藤さんは、よくスキーに出かけるそうです。

今年も出かけましたか？

一月に友だちと日光へ、二月に青年団で草津へ行って滑ってきました。スキーはいいですね。

行ってみたい北海道

伊藤隆郎さん（遠山）

今、行ってみたいところはありますか？

夏に、雄大な自然を見に北海道へ一度は行ってみたいと思っていますが、この時期はタバコが忙がしいので、実際に行けるかどうかわかりませんが。

と話す伊藤さんは、将来の生活設計もしっかりしているようです。

家を継いで、タバコをもっと増やしたいですね。それに三年ぐらいのうちにお嫁さんも——

伊藤隆郎さん。青春まっしぐら！

こんにちは⑥

横芝小学校

鼓笛隊のみなさん

三十四年に郡内初の編成

町民体育祭で、毎年、見事な演奏と演技を被ろうして、私たちを魅了する横芝小鼓笛隊。

同校の鼓笛隊は、昭和三十四年ごろ山武郡内で最初に結成され、笛、太鼓、ベルリラ、アコーディオン、ピアニカ、それにバトントアラーが加わり五、六年の児童三百人の編成でした。

その後、四十四年にトランペットが、四十八年と五十年に、ホルン、トロンボーン、チューバなどの金管楽器が加わり、また、父兄の方がたの協力と理解によって、五十年ごろからトランペットを個人で購入する児童が増え始め、今では、百三十台余りあるトランペットのうち、そのほとんどが個人持ちになっています。

「楽器や音楽を生活に取り入れることと、子供たちに集団行動の大切さがわかってもらえたら——」と話す音楽主任の土屋先生。

五、六年生を中心に、三百二十人で編成されている横芝小鼓笛隊。週三日の練習に、今日もがんばっています。

勢いをつければ飛び越せそうな流れで、天気のよい日には、川底をはい回るヤゴ（トンボの幼虫）の姿も見えるくらいでした。川幅もそこだけは広くなっていて、深さもあるので〝大みよ淵〟と呼び、農具や作業着などを洗うのに格好の場所だったのです。このため〝洗濯場のにょいりん様〟とも呼ばれていました。

お産で亡くなられた方があると、大勢の人たちが観音様にお参りに来ました。栗山の人々は、ここから上町（このシリーズ三十六・昭和五十五年十月で紹介）と本町（観音寺）の観音様に行くのです。細いたんぼ道を歩くのですから、ぞろぞろの長い行列になり、蟻が巣を移すためにつくる行列が、この様子に似ているため〝蟻の観音参り〟といって、なるべく蟻の列を乱さないようにする風習は、今でも残っています。

にょいりん（みょうれん）参り、あるいは七観音参りと呼び、青竹三本を交差させて組み合わせ、亡くなられた方の、年の数だけの本数の縄を結び、その傍らに水桶とひしゃくを備えておき、側を通る人は、このひしゃくで、青竹の上から手向けの水をかけたのです。これを千人供養と呼んで、おおよそ千人ぐらいの人の供養が済んだころ、これを片付けたのです。千人供養の風習は、古老の語り草となっているだけで、今はまったく見られません。その都度行っていた観音参りも、今では年二回ぐらいに、その間に亡くなられた方の供養を一度に行うようになりました。

沢山に二体並んで建っていたころには、栗山の方がたの信仰の一つとして〝持ち込み子安講〟という風習もあったとお伺いしました。

〝七観音参り〟の意味と〝持ち込み子安講〟の風習を取材し、ご紹介できれば、と考えています。

（取材にあたり、栗山本村の方がたのご指導をいただきました。栗山で沢田と聞くとすぐわかりますので案内図は省略いたしました）

横芝町文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿

▲水路を背にして建っている〝にょいりん様〟